

2025年度は27名の研修医の方々が当院で研修をされました。
提出いただいた感想文を掲載しています。

鹿児島大学病院 勝山ビタリー（研修期間：2025年4月、5月）
福岡大学病院 五貫律都（研修期間：2025年4月）
福岡大学病院 工藤滉大（研修期間：2025年4月）
いまきいれ総合病院 多田野真央（研修期間：2025年5月）
鹿児島医療センター 原田 聞（研修期間：2025年5月）
鹿児島医療センター 仲田圭秀（研修期間：2025年6月）
済生会 松山病院 重見侑弥（研修期間：2025年6月）
福岡大学病院 間部 彩（研修期間：2025年6月）
鹿児島医療センター 土持友香（研修期間：2025年7月）
鹿児島医療センター 中村佳帆（研修期間：2025年7月）
鹿児島医療センター 堀之内莉奈（研修期間：2025年7月）
済生会 松山病院 武井健悟（研修期間：2025年8月）
鹿児島医療センター 村橋 暁（研修期間：2025年8月）
鹿児島医療センター 森元桃衣（研修期間：2025年8月）
いまきいれ総合病院 蛭川寛之（研修期間：2025年9月）
鹿児島大学病院 河野史也（研修期間：2025年9月）
北海道大学病院 芝野良紀（研修期間：2025年9月）
いまきいれ総合病院 楯 晃太郎（研修期間：2025年10月）
福岡大学病院 中山瑞季（研修期間：2025年10月）
福岡大学病院 来仙雄生（研修期間：2025年10月）
北海道大学病院 小澤健人（研修期間：2025年11月）
福岡大学病院 長瀬 愛（研修期間：2025年11月）
福岡大学病院 森 悠（研修期間：2025年11月）
福岡大学病院 大島理桜（研修期間：2025年12月）
福岡大学病院 菊池恵里花（研修期間：2025年12月）
福岡大学病院 中西祐陽（研修期間：2025年12月）
福岡大学病院 岩城葉奈（研修期間：2026年1月）

鹿児島大学病院 研修医 2年目 勝山ピタリー

私は4月から5月にかけての2か月間、種子島医療センターで臨床研修を行いました。この病院を研修先を選んで本当に良かったと感じています。

1か月目は糖尿病内科でお世話になり、先生方のご指導のもと、血糖コントロールや糖尿病治療の最新の方法について多くを学びました。2か月目は消化器外科で研修し、術前・術後の患者ケアに関わるだけでなく、腹腔鏡手術の実際にも触れることができました。また、消化器がん患者への化学療法についての知識も深まりました。

さらに、救急外来での初期対応、外来診察、発熱外来、訪問診療にも参加し、幅広い経験を積むことができました。種子島という離島ならではの医療の在り方や、地域に根ざした診療の重要性も学ぶことができました。患者さんとの距離が近く、信頼関係を築く姿勢がとても印象的でした。

種子島医療センターのすべてのスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。ここでの2か月間は、私にとって医師として大きく成長できた貴重な時間でした。

いまきいれ総合病院 研修医 2年目 多田野真央

種子島医療センターでは、整形外科で研修をさせていただきました。研修医の間に整形外科の研修をすることはないだろうと思っていましたが、今回の研修で整形外科を選択して本当に良かったと思いました。包帯交換での創傷処置や、骨折の診察、シーネ固定の方法、脱臼の整復だけでなく、手術時は必ず手洗いをし、術野に入らせていただきました。

手術の際には、助手や閉創などをたくさん経験させていただきました。縫合キットで糸の向きや結び方を練習していても、実際の閉創時には、同じ部位でも患者さんごとに皮膚の薄さや弾力に違いがあり、テンションのかけ方にも気を付ける必要があるということを実感しました。

術野にたくさん入らせていただいたおかげで、助手としてどのような行動をとるべきか、術中に何を必要とされているか等、さまざまなことを考えながら立ち回る行動力や意識も身についたと思います。また、整形外科研修の合間に、内科外来や島特有の疾患、訪問診療や診療所での研修をすることができ、多くのことを学びました。

これまで、内科外来では一人で処方まで行った経験はなかったので、1か月前と比較して少しではありますが自信ができました。困った時には指導医に相談できる環境もありながら、自分で考えて診察、検査オーダー、処方まで行うという経験を種子島でできたことは、今後も生かしていけると考えています。

鹿児島医療センター研修医2年目 原田 聞

5月の1か月間、消化器内科で研修させていただきました。ほぼ毎日、上部消化管内視鏡を操作しました。最初は不慣れで難しく、ご迷惑をおかけしましたが、先生方から優しく丁寧に指導していただき、少しずつ操作のコツを掴めたように思います。

胃内の観察は見れば見るほど面白く、大変有意義でした。病棟管理についても教えていただき、消化器内科に関わらず、さまざまな内科疾患を診ることができました。また、救急科でも対応する機会を与えてくださり、マムシ咬傷と抗毒素血清に対するアナフィラキシーショックを経験し、島ならではの症例と対応を勉強できました。

内科外来は初めてでしたが、幼少期から憧れていた「町のお医者さん」を体現しているかのようで、やり甲斐を感じました。診療所や訪問診療では、島民の方たちと接する先生方の姿から学ぶことが多くありました。

種子島観光については、特に種子島宇宙センターの管制塔を見学した際には胸を打つものがありました。その他の観光名所も巡り、種子島を満喫しました。先生方ともたくさんお話をすることができ、濃密で幸せな1か月間でした。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

鹿児島医療センター研修医2年目 仲田圭秀

種子島医療センターの整形外科と内科外来で1か月間お世話になりました。初期臨床研修中に整形外科をまわることになるとは考えておりませんでした。包帯交換の際に気をつけることや、術後創部洗浄後の処置、骨折の診察及び処置、人工骨頭置換術後の大腿骨頭脱臼など、さまざまな経験をさせていただきました。

手術においても、高齢の骨粗鬆症女性患者における大腿骨頸部骨折という、将来私が進みたいと思っている産婦人科領域でよく見ることになるであろう疾患を経験させていただき、改めて骨粗鬆症の怖さを感じると共に、それを念頭に置いた診療を心がけようと思いました。

内科外来でも1か月間お世話になり、急性上気道炎や急性気管支炎、肺炎といったポピュラーな疾患から、ムカデ咬傷のような離島特有の疾患まで、さまざまな症例を診させていただき、大変勉強になりました。自分一人で診察から処方まで行うのは初めての経験であったので、最初は何も分からず、クラークさんや指導医の先生に大変ご迷惑をおかけしましたが、2週目あたりから少し自信を持って処方などを出せるようになってきました。

救急外来ではCPA患者さんの対応の際にリーダー役をさせていただき、救命措置を中断する判断を迫られ、改めて医師の責任の重さを痛感させられました。種子島医療センターでの経験を活かし、産婦人科医への道を進んでいきたいと思っております。

1か月という短い間でしたが、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

済生会松山病院研修医2年目 重見侑弥

3週間と短い間でしたが、ありがとうございました。3週間は外科を回らせていただき、鼠径ヘルニアに対する前方アプローチ法やTAPP法、大腸がんに対しての回盲部切除術など、さまざまな手術を見学することができ、とても勉強になりました。

個人的に良かった点は指導体制です。済生会松山病院には若手の外科医がおらず、わからないことも聞きにくいという雰囲気がありました。種子島医療センターの外科は若手の先生に加えて、ベテランで指導熱心な先生がいらっしゃり、とても良い環境だと感じました。今回の研修で学んだことを、愛媛に帰り臨床に生かせるように努力したいと思います。

また、休日は釣りに行くことがほとんどでしたが、愛媛では見られないような魚が釣れてとても楽しかったです。海や自然の景色もとてもきれいで、また機会があれば種子島に行きたいと考えております。

同期の間部先生や仲田先生も勉強熱心であり、充実した研修を送ることができたのではないかと考えております。3週間、ありがとうございました。

福岡大学病院研修医2年目 間部 彩

種子島での研修では、初めてのことを多く経験しました。大学病院で研修しているため、問診、診察、処方・処置をすべて自分で決めることは、これまでありませんでした。

種子島での研修では、内科外来・発熱外来・ワクチン外来を研修医として担当しました。実際に患者さんと向き合う中で、話し方、対応力、判断力の大切さを痛感しました。また、マムシ咬傷や熱中症、CPAといった急患対応にも携わり、迅速に判断し、行動する重要性を学びました。小児科外来では子どもだけでなく、保護者の方とのやり取りに難しさややりがいを実感し、より小児科医への関心が深まりました。

オフの時間には、宇宙科学館を訪れたり、人生初の一人居酒屋デビューを果たしたりと、プライベートでも充実した時間を過ごすことができました。種子島産婦人科医院の先生とご縁があり、初めてサーフィンをしました。楽しく貴重な体験になりましたし、その日のビールは最高でした。ロケット発射は延期になりとても残念でしたが、発射予定日が決まったので、見学して種子島研修を終えたいと思います。とても楽しみです。

限られた短い期間ではありましたが、多くの出会いと経験に恵まれたことを心から感謝しています。この研修で得た経験を今後の学びに生かしていけるよう、これからも努力を重ねていきたいと思っております。

鹿児島医療センター研修医 2 年目 土持友香

私は宮崎県出身で、宮崎県唯一の有人島「島浦」に 3 年間住んでいました。島浦の人口は 800 人で、信号もない小さい島だったため、今回初めて種子島を訪ねた際、街の大きさや飲食店の多さに驚きました。宮崎の海も太平洋が一望でき綺麗なのですが、種子島の海は澄み通っていて、ずっと眺めていたいと思える景色でした。

種子島医療センターでは消化器内科で研修させていただきました。内視鏡、胃瘻増設、ERCP など、さまざまな手技に参加することができました。当院では終末期ケアに接する機会が多く、最期の時間の過ごし方、そこでの医師のあり方について改めて考えさせられました。内科外来、救急外来でも研修させていただきました。内科外来では、問診し、検査をオーダーし、帰宅させていいのかを考え、処方する一連の流れを学びました。

印象的だったのは、数日前からのお腹の張りを主訴に来られた方です。画像検査にて胃の壁肥厚の所見があり、上級医に相談し、胃がんの診断となりました。救急外来に搬送される脳梗塞や心筋梗塞の対応には慣れていましたが、内科外来での腫瘍の発見には全く慣れておらず、病状を説明する側の心理的負担を痛感した症例でした。深刻なことを伝える IC は、いつか慣れてしまうのかもしれませんが、この感情だけは忘れずに、慎重に言葉を選びながら患者さん一人ひとりと真摯に向き合っていきたいと思えます。

今回は鹿児島医療センターの同期 3 人で一緒に研修することができました。内科外来で困った時、救急外来で外傷の処置の仕方が分からない時、すぐに相談できる頼もしい 2 人がいてくれて、とても心強かったです。仕事終わりや休日も 3 人でお出かけし、いろんな写真を撮りました。最高の夏の思い出です。

このような素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

鹿児島医療センター研修医 2 年目 中村佳帆

種子島医療センターでの 1 か月間の研修は、私にとって非常に実りの多い経験となりました。私は整形外科を回らせていただき、さまざまな手術に立ち会う機会を得ましたが、なかでも創外固定による骨折治療術は、初めて見たときに大きな衝撃を受けました。画像でしか見たことのなかった手技を実際に目の前で見ることで、教科書では得られないリアルな理解につながり、整形外科の手術の魅力を感じることができました。

また、一般外来では、自分で問診を取り、必要な検査を考え、治療方針を立てるという一連の診療過程を経験することができ、非常に勉強になりました。医師としての判断力や責任の重さを実感するとともに、自分の成長を感じられる貴重な機会でした。

当初は、離島での 1 か月間の研修に対して不安もありましたが、同期 3 人で一緒に研修に参加できたことが大きな支えとなりました。お互いに相談し、協力し合いながら日々の研修に取り組むことができただけでなく、休日には種子島の美しい自然や観光地を訪れることもでき、学びとリフレッシュのバランスが取れた時間を過ごせました。

何より、指導してくださった先生方の温かく、丁寧なご指導に心から感謝しています。特に、外傷の症例を初めて診た際には、何もできない私に対して一から手取り足取り教えてくださり、医師としての誇りや姿勢を学ぶことができました。先生方には食事にも何度か連れて行っていただき、職場とはまた少し違った距離感でいろいろなお話をすることができて、本当に楽しかったです。

この 1 か月間の経験を今後の研修や診療に活かしていけるよう、引き続き努力を重ねていきたいと思えます。貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました。

鹿児島医療センター研修医 2 年目 堀之内莉奈

高速船トッピーに揺られ、初めての外海航路を終えて種子島に到着したあの日。潮風と共に感じた独特の空気感、そして地域医療への不安と期待は今でも鮮明に覚えています。種子島医療センターでの研修、そして種子島で生活したこの 1 か月は、新たな気付きを得るとともに、自身を見つめ直すとても貴重な機会となりました。

医療の現場においては、高齢者の数が多いこと、また高齢であってもしっかりされている方が多いことが印象的でした。それに加えて、入院時に主として問題となっていた病気が治療によって治ったとしても、決してそれで終わりではないことを目の当たりにしました。例えば症状が良くなったとしても、退院後の環境の調整やリハビリによって生活できるまで体調を回復しないことには、本当の意味で患者を治し、医療を提供することにはならないと痛感しました。高齢化が進む現代だからこそ、その後も見据えたケアの重要性に気づかされました。

そして今回、離島であることを実感した出来事が主に二つありました。一つは、入院患者をヘリコプターで市内の病院に転院搬送したときでした。種子島医療センターは設備も検査も、研修医として働く分にはかなり充実していると感じていましたが、その時だけは離島という限られた現場であることをまざまざと感じました。二つ目は、1 か月の研修も終盤に差し掛かった頃、近海での台風発生により天候が悪化したときでした。本土との連絡手段が限られているからこそ、医療に限らず食料品など、さまざまなサービスが制限される場合もあり、離島での生活の厳しさを感じました。しかしながら、それと同時に、そのような状況でも地域で過ごすことの豊かさや、地域の人々の温かさに救われ、心からの敬意を抱きました。

今回の経験は、地域医療の在り方や今後の自分の働き方について、より深く考えるきっかけとなりました。この研修で学んだことを今後の成長に活かしていきたいと思います。1 か月間ありがとうございました。

鹿児島医療センター研修医 2 年目 村橋 暁

2025 年 8 月に種子島医療センターで 1 か月間研修させていただきました。種子島医療センターは、人口 3 万人ほどが暮らす種子島において、「しあわせの島、しあわせの医療」をスローガンに掲げ、急性期医療や救急医療のほか、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟を備えており、幅広い医療を提供する中核的医療機関としての役割を担っておりました。

また、種子島から西へ 12km ほどの距離に位置する馬毛島では現在、航空自衛隊基地の建設工事が行われておりますが、種子島医療センターを運営する社会医療法人が 2024 年に馬毛島診療所を開設し、島内の工事関係者に対するオンライン診療も提供しているなど、奄美大島とはまた違った形の離島医療を行っている点が特徴的でした。

研修では、選択した診療科での業務に並行して、救急患者の対応や一般内科外来の初診も担当させていただきました。救急外来ではマムシ咬傷や海洋生物による刺傷といった、離島特有の疾患を経験することができました。一般内科外来では、高血圧、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病や感染症、皮膚症状といった common diseases を幅広く経験することができました。

自分は整形外科と脳神経外科をローテーションさせていただきましたが、整形外科では大腿骨骨折の手術の執刀を担当させていただけるなど、貴重な経験を積むことができました。臨床研修も半年を残すのみとなりましたが、種子島での 1 か月間で得た知見や課題をもとに、残りの研修期間を有意義なものにしたいと思います。

勤務時間以外では、種子島の豊かな自然に触れたり、現地の飲食店を訪れたり、非常に楽しい時間を過ごすことができました。8 月には島内最大の祭りイベントである鉄砲祭りがあり、病院メンバーで団体手踊りに参加させていただきました。西之表市の中心部を 2 時間ほどかけて踊り歩きましたが、観覧客のなかには外来患者や訪れた飲食店の店員の方々がいらしたり、住民と医療者の距離が非常に近い地域ならではのエピソードもありました。

台風の頻発する 8 月の研修でしたが、幸い天候にも恵まれたことから、休日には島内の海水浴場を巡ることができました。特に、浦田海水浴場や能野海水浴場の広大な白いビーチから鮮やかなマリニブル

一の海を臨む景観は絶景であり、その美しさに息をのんだことを鮮明に覚えています。

島の中央部に位置する中種子町は映画「秒速5センチメートル」の舞台になったことでも有名で、劇中で描かれた中種子町の満天の星空も堪能することができました。雄大な自然に囲まれ、美味しい食事と人々の温かさに触れ、島の持つ独自の文化や歴史に触れることで、大いにリフレッシュすることができました。

1 か月間で、医療者としての研鑽を積むだけに留まらず、自身の見識を大きく広げる貴重な経験をすることができました。温かく迎えてくださった種子島の皆さまに、心より感謝申し上げます。この経験を糧として、今後の業務に一層邁進していく所存です。

鹿児島医療センター研修医 2 年目 森元桃衣

私は、この 1 か月間の種子島医療センターでの研修で、外傷やへび咬傷など幅広い症例を経験したいと考え、救急・放射線科で研修させていただきました。

救急科では、刃物による裂創や高所からの転落、マムシ咬傷など、あまり経験したことのない症例を経験することができました。私の研修病院では外傷を経験する機会が少なく、不慣れなところが多々ありましたが、野田先生をはじめ、救急外来のスタッフの方々に丁寧にご指導いただいたことに感謝申し上げます。

放射線科では、全身の CT・MRI を読影させていただきました。ちょっとした疑問点にも快く答えてくださった野田先生のおかげで、大変充実した研修ができました。

また、救急・放射線科の研修と並行して一般内科外来・発熱外来を研修させていただきましたが、ある程度の裁量権をもって研修を行うことができ、今後の診療に大変生きる経験ができたことは、私にとって貴重な財産です。

この 1 か月間の研修を糧に、今後も精進いたします。ありがとうございました。

いまきいれ総合病院研修医 2 年目 蛭川寛之

種子島医療センターでの 1 か月間の整形外科研修を終え、非常に有意義な時間を過ごすことができました。まず何よりも、温かく迎え入れてくださった指導医の先生方、病棟・外来で丁寧にご指導くださったスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

種子島医療センターの研修では、これまでの研修では得られなかった、地域中核病院ならではの幅広い症例や、患者さんとの距離の近さを体験することができた点が大きな学びとなりました。

手術見学では、人工関節置換術や骨折観血的整復固定術などを経験し、術前の計画やチーム医療の協力体制の重要性を学びました。執刀医やスタッフの方々から直接、解剖や手技のポイントを教えていただき、将来に向けて知識と意欲が高まる経験となりました。

また、離島という地域特性上、患者さんが気軽に市内の病院へ通院できない現状を目の当たりにし、地域医療における整形外科の役割を強く意識しました。限られた医療資源の中で、患者さんの生活を支えるために幅広い対応が求められることを実感しました。

外来診療では、感冒、腹痛、食欲低下といった幅広い主訴を訴える患者さんがいて、中には呼吸苦や胸痛といった緊急性のある疾患を連想させる症状を訴える方もいました。その中で、特に採血・画像検査を正確に選択する重要性を実感するとともに、身体所見と患者さんの訴えを総合的に判断する力の大切さを学びました。また、患者さんの生活背景や仕事の事情を踏まえて治療を選択していく過程に立ち会い、整形外科医が医学的知識だけでなく、患者さんの生活に寄り添う視点を持つ必要性を痛感しました。

この 1 か月の研修を通して、整形外科医としての専門性だけでなく、地域医療に従事する医師としての姿勢を学ぶことができました。今回の経験を今後の学習・臨床に活かし、より良い医師を目指して努力を続けたいと思います。

鹿児島大学病院研修医2年目 河野史也

「せんせー、おーきに」

種子島の独特な方言が飛び交う種子島医療センターで、1か月間無事に研修を終え、また一つ医師として成長することができたように感じている。

研修内容の1つは、内科外来での業務であった。内科外来では、患者さんから問診を取り、必要な検査を考え、治療方針を立てるという一連の診療過程を行った。初めての外来経験ということもあり、さまざまな問題に直面した。主訴に対しての問診や検査を、患者さんとの日常会話を行う中で考えていく難しさ、医療知識のない方に病気の説明を行う難しさ、特に悩ましかったのは、検査が必要な方にどのように説明すれば検査が必要であることをわかっていただけるのだろう、という難しさであった。

このように、1人で方針を決定し実行するという判断力や責任の重さ、また、医師として働いている限り直面するであろう、さまざまな問題を体験し、毎日工夫して診療を行ったことで、自分の成長を感じられる貴重な機会となった。また、これからの医師人生の中で大いに役立つものになると感じることもできた。

内科外来がない日は、脳神経外科の研修に参加させていただいた。西之表市の脳梗塞、クモ膜下出血、急性硬膜下血腫などの急を要する疾患は、すべて種子島医療センターに運ばれ治療を行う。急性期を脱したあとも転院ではなく、リハビリ病棟に転棟し、リハビリを終えるまで入院をしていた。また、外科では術前から術後の全身管理のすべてを外科のみで行っていた。

このように離島医療の実際と、へき地では最初から最後まで診ることができ、かつ質の高い医療を提供できる医師が求められていることも実感した。高齢化社会が進行していく昨今、ジェネラルな医療を提供できる医師になることで社会に貢献していきたいと、今一度医師としての目標を確認する貴重な機会となった。

当初は離島での1か月間の研修に不安も大きかったが、同時期に研修を行った2人の研修医の存在が大きかったように思う。お互いに相談し、協力し合いながら日々の研修に取り組むことができただけでなく、休日は3人で釣りやカヌーなど種子島の豊かな自然に触れ、学びとリフレッシュのバランスが取れた時間を過ごすことができた。

最後に、この1か月間で先生方、看護師さん、研修医、事務の方など多くの人に支えられ、島民の方にも優しく接していただいた。この恩を忘れず、立派な医師となり、種子島にいつか戻ってくる日まで努力を重ね、お世話になった方々に胸を張って恩返しができるればいいなと思う。

いまきいれ総合病院研修医2年目 榎 晃太郎

私は種子島医療センターでの地域医療研修で、内科外来診療、訪問診療、救急などを通して多くの経験をさせていただきました。また、整形外科を選択し、主に手術の見学をさせていただきました。

内科外来では、二次救急が主な現在の研修先ではあまり経験することがなかった、上気道炎などのcommon diseaseであったり、腹痛、嘔声、めまいなど、原因がすぐには分からないような主訴を持つさまざまな患者さんの診療を経験しました。それぞれの患者さんにおいて、病歴聴取、検査の選択、治療方針の決定、説明等、これまでの研修でも経験してきましたが、やはり足りていない部分も多く、勉強になることがたくさんありました。

整形外科研修では、大腿骨転子部骨折の骨接合術や、膝関節置換術などの手術の見学をしました。実際に術野に入り、スクリュー挿入など初めての手術手技をすることができ、良い経験になりました。

さらに、研修後半では救急外来での救急車対応も経験することができました。先生の「離島では患者の治療結果がそのまま自分に帰ってくる」という言葉がとても印象に残っており、医師としての技量がより試されるということや、離島医療の難しさを改めて実感しました。

最後に、温かく迎えてくださった種子島医療センターの職員の皆様には感謝申し上げます。ここでの経験を生かして、よりよい医師になれるように研鑽を重ねていきたいと思っております。

福岡大学病院研修医2年目 中山瑞季

私は大学病院では経験できない一次医療機関での診療や離島医療を見たかったことと、先輩方が勧めてくださったことをきっかけにこちらでの研修を希望しました。来年、鹿児島大学小児科に入局するので、小児科での研修を希望しました。

午前中は基本的に小児科の外来を見学させていただき、午後は成人の内科外来や予防接種、訪問診療を経験させていただきました。小児科外来では、かかりつけ医としての役割の重要性と難しさを感じました。

研修後半には、実際に数人の患者さんの診療を経験させてもらいました。ほとんどが軽症の上気道炎などで来院する中で、重症になる可能性のある患者さんを見落とさないことや、検査・治療の適応を見極めることは、豊富な経験や知識が必要だと感じました。小児の身体診察や保護者とのコミュニケーションは、患者ごとに臨機応変な対応が必要で難しかったです。大学病院では入院患者を担当することしかなかったので、外来でのフォローの考え方や患者さんへの説明の仕方なども学ぶことが多かったです。

また、点滴ルート確保や採血、胃瘻交換などの手技も経験させていただき、うまくいかないときは先生方が丁寧にご指導くださいました。島に小児科が一つしかないため、1時間くらいかけて来院する患者さんがいたり、産科での検診から日々の診療まで成長の過程をずっと診ることができたりと、離島特有の診療の実際を体感することができ、大変貴重な経験になりました。

午後の診察では、初めて一人で外来診察を行い、大変緊張しましたが、その分とても勉強になりました。わからないことばかりでしたが、クラークや看護師の皆さんが優しくサポートしてくださり、なんとか乗り切ることができました。大変感謝しております。

食堂で食べる昼食も大変美味しく、毎日の楽しみでした。仕事終わりや休日には、種子島の美味しいご飯を食べたり、観光したりと、充実した時間を過ごすことができました。

研修で得た学びに加え、尊敬できる先生方や頼もしい同期との出会いも、私にとって大きな財産となりました。今後の人生に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

福岡大学病院研修医 2 年目 來仙雄生

種子島での 1 か月間の小児科研修は、私にとってとても濃く、忘れられない経験になりました。初めての離島での生活に少し緊張していましたが、島の方々やスタッフの皆さんが本当に温かく迎えてくださり、すぐに安心して研修に打ち込むことができました。

研修では、1 か月健診や予防接種、一次外来を中心に多くの子どもたちと関わりました。1 か月健診では、まだ小さな赤ちゃんを抱いたお母さんたちの不安や喜びに触れ、「診察する」だけでなく「気持ちを支える」ことの大切さを感じました。予防接種では、泣きながら頑張る子どもたちを見守る保護者の姿に、家族の強さと温かさを実感しました。

一次外来では、限られた検査機器の中で、問診や診察から判断していく難しさとやりがいを感じました。発熱や咳などの症状に対して、どう優先順位をつけ、どう説明すれば安心してもらえるか、毎日が学びの連続でした。

特に印象に残っているのは、医療スタッフだけでなく地域全体が「子どもたちをみんなで育てている」という雰囲気です。看護師さんや保健師さん、保護者の方々が自然に声を掛け合い、支え合う姿を見て、医療はチームだけでなく、地域そのもので成り立っているのだと感じました。

この 1 か月間の研修を通して、離島医療の厳しさと同時に、人と人とのつながりの温かさを学びました。小さな命を守る現場で得た経験を糧に、今後も一人ひとりに寄り添える医師を目指して努力を続けていきたいと思います。

北海道大学病院研修医 2 年目 小澤健人

11 月の 1 か月間、種子島で地域研修をさせていただき、誠にありがとうございました。今回の研修では、普段北海道で過ごしている環境とは異なる島の医療体制に触れ、医療資源や人的サポートが限られる中で、患者さんの生活背景まで含めて診療にあたる姿勢の大切さを学びました。特に、患者さんと医療者の距離が近く、生活や思いに寄り添いながら支える地域医療は、都市部の医療とは異なる温かさや責任の重さを感じました。

外来では、幅広い疾患に触れ、診療の流れを経験できたことに加え、訪問診療にも同行させていただき、自宅で生活する患者さんそれぞれの環境を実際に見ることで、治療だけではなく生活そのものを支える医療の視点を学ぶことができました。

整形外科では、先生方がとても丁寧に指導していただき、実際に手術を担当させていただくなど、非常に貴重な経験となりました。また、他診療科の先生方も相談しやすく、とても温かい雰囲気の中で研修することができました。

生活面では、島のご飯も美味しく、休日には宇宙センターや千座の岩屋などの観光も満喫しました。さらには屋久島まで足を伸ばし、縄文杉までの登山にも挑戦することができ、とても良い思い出となりました。

全体を通して学びも経験も多く、とても充実した時間でした。この貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

福岡大学病院研修医 2年目 長瀬 愛

この1か月間、種子島医療センターで研修させていただき、誠にありがとうございました。離島という特殊な医療環境の中で、患者さんに最も近い現場を体感し、多くの学びと気づきを得ることができました。特に、外科手術に積極的に参加させていただけたことは大変貴重な経験でした。

大学病院では専門性が高く、分業される場面が多いですが、こちらでは術前の評価から術後管理、さらには外来でのフォローアップまで一連の流れに関わることができ、外科医として必要な視点を改めて実感しました。

また、離島医療では疾患の幅が広く、緊急性の高い症例にも迅速に対応する必要があります。外来業務を担当させていただいた際には、自ら考えて診断し、治療方針を決定する場面もあり、自身の責任と成長を強く感じました。一方で、スタッフの先生方やコメディカルの皆様が丁寧に指導してくださり、安心して挑戦することができました。

週末にはマングローブカヤックやゴルフ、屋久島への登山など、種子島ならではの自然を満喫でき、心身のリフレッシュにもつながりました。地域の温かさに触れ、この島の医療を支える使命感の強さにも深く感銘を受けました。

今回の研修で得た経験を今後の臨床に活かし、さらに成長していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

福岡大学病院研修医 2年目 森 悠

今回の地域研修では、これまで都市部の病院で経験してきた医療とは異なる、地域ならではの医療の姿を学ぶことができました。患者さん一人ひとりの背景に寄り添い、生活環境や家族構成、地域資源を踏まえた医療的支援が重要であることを実感しました。

また、通院困難な高齢者への訪問診療に同行し、病院内だけでは見えにくい患者さんの生活実態を理解する貴重な機会となりました。限られた医療資源の中で、医師・看護師・薬剤師・ケアマネジャーなど、多職種が連携し、地域全体で患者さんを支えている姿に深い感銘を受けました。

さらに、住民の方々の医療への信頼と温かいコミュニケーションから、地域医療の根底には「人と人との関係性」があることを改めて認識しました。今回の経験を通して、病態だけでなく患者さんの人生全体を視野に入れた医療ができる医師を目指したいと強く思いました。今後の研修にも、本地域で得た学びを活かしていきます。

福岡大学病院初期研修医 大島理桜

種子島医療センターでは、糖尿病内科を回らせていただきました。1型糖尿病の患者さんの血糖管理をさせていただき、血糖コントロールの考え方やインスリン製剤の種類と使い分けなど、来年以降も長く役に立つ知識を学ぶことができました。

また、救急車の対応や内科外来もさせていただき、蜂に刺されアナフィラキシーになっている方やムカデに噛まれた方など、離島ならではの症例を見させていただきました。

先生に教えていただいたことで印象に残っているのが、「この島にはここしか大きな病院がないから、患者さんを帰す判断をしても、その後何かあったらまたここに戻ってくる。自分の行った治療が正解だったのかどうか、自ずと自分で確認することになる」という言葉です。普段、福岡の病院で働いていると、出会った患者さんが次は別の病院に行ったり、別の病院から転院してきたり、転院させたりということが多く、1人の患者さんを継続して診る機会は限られています。そのため、島の患者さん全てに責任を持つという感覚は初めてで、責任の重さを感じるとともに、とても大切な仕事だと感じました。そして、そのように島の方への医療にきちんと責任を持ち、真摯に向き合ってきたからこそ、診療所や訪問診療で先生が患者さんからとても信頼されていることが伝わりました。

私も、これから医師として働いていく上で、この島での経験を忘れず、自分の患者さん一人ひとりに真摯に責任を持って向き合い、患者さんから信頼されるような医師を目指そうと思います。

福岡大学病院研修医2年目 菊池恵里花

種子島医療センターでは、消化器内科を回らせていただきました。消化器内科ではカメラの使い方を教わり、実際に患者さんの検査をさせていただきました。内視鏡の扱い方を学んだことがなく、思った以上に難しい手技でしたが、丁寧に教えてくださったおかげで上達することができました。今まで内視鏡を扱う機会がなく、今後あまり関わることのない分野ではありますが、興味がある分野であったので、大変勉強になりました。

また、内科外来は今回が初めての経験でした。種子島にはあまり病院がなく、種子島医療センターがかりつけ医の役割を持っていることを知りました。内科外来で診た患者さんが、何かあったら再び医療センターに戻ってくるという点に、離島医療を感じました。診た患者さんは責任を持って最後まで診るということの大切さを改めて感じました。

訪問診療や診療所の診療にも初めて参加させていただきました。種子島のような病院が多くない地域では、より訪問診療や診療所を必要とする方が多くいらっしゃることを学びました。遠くて病院に行くのがなかなか難しい方や、在宅で最期を迎えようとしている方などを実際に診て、先生方は本当に多くの患者さんにとってなくてはならない存在であると感じました。

この1か月で大学では学べなかったことや、種子島に来たからこそ得た学びが多く、今後の人生にとって大変有意義な時間と経験をすることができました。種子島で学んだことや感じたことを、これからも忘れずに活かしていこうと思います。

福岡大学病院研修医 2 年目 中西祐陽

私は 12 月の 1 か月間、種子島医療センターで臨床研修を行わせていただきました。整形外科の先生方のご指導のもと、多くの手術や病棟での処置をやらせていただくことができ、初期研修ではなかなか経験できないような実践的な知識を学ばせていただきました。

また、主に野田先生の指導の下で救急外来での初期対応を学べた他、離島ならではの症例（ムカデ咬傷など）や馬毛島から来られた患者さんへの対応などのデリケートな部分も学ぶことができ、このような医療現場もあるのだと知見が広がりました。内科での外来診察、発熱外来、訪問診療では多くの症例を見ることができ、外来での患者さんへの接し方を勉強できました。

休みの日は天気の良い日が多く、ドライブするだけでリフレッシュできました。また、屋久島では太鼓岩から絶景を見ることができ、H3 ロケットは雲一つない晴天に向かい放たれた機体に感動いたしました。結果的に軌道に乗れなかったことを後で知り残念でしたが、見られた景色や肌で感じた迫力は変わらず、素晴らしいものでした。先生方と飲みに行かせてもらい、聞いたお話も、食べた料理も飲んだ酒もすべてが最高でした。

1 か月間が 1 週間のように感じられるほど充実した研修をできたことを、医療センターをはじめとする種子島のすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

福岡大学病院研修医 2 年目 岩城葉奈

本研修では、1 か月間にわたり種子島にて地域医療に携わる機会を得ることができました。都市部の医療機関とは異なる環境の中で、医師としてどのように判断し行動するべきかを深く考えさせられる研修でした。

特に内科外来での学びは非常に多かったです。高齢者を中心に、複数の慢性疾患を抱えながら生活している患者さんが多く、単一疾患のみを診るのではなく、全身状態や生活背景を踏まえた診療の重要性を実感しました。問診や身体診察から得られる情報の重みを改めて認識し、基本に立ち返った診療姿勢が求められたと感じています。私は研修医 1 人での研修だったため、内科外来を担当する機会が多く、再診の患者さんを診ることができたのも貴重な機会になったと思っています。

また、軽症から重症まで幅広い症例を初期対応する機会が多く、鑑別診断を常に意識しながら診療を進める力が鍛えられました。すぐに専門科へ紹介できない環境だからこそ、「今この患者さんを帰してよいのか」、「追加で何を確認すべきか」を自分で考え、責任をもって判断する経験は、今後の臨床に大きく生かされると感じています。

さらに、患者さんとの距離が近い地域医療ならではの関わりを通して、医療は生活の一部であることを実感しました。継続して同じ患者さんを診る中で、症状だけでなく不安や生活上の困りごとにも目を向ける姿勢の大切さを学ばせていただきました。

この 1 か月間で得た経験を今後の研修・診療に生かし、どのような環境においても患者さんにとって最善の医療を提供できる医師を目指していきたいと思えます。